指導案⑥

地震防災　学習指導案

年　月　日（　）第　校時

小学校高学年

児童数　　　名

場所　　　教室

指導者

**１　題材名**　「非常持ち出し袋に入れるものを考えよう」

**２　題材について**

（１）児童の実態

（小学校の立地、児童の人数、特徴などを書く。）

　（２）題材設定の理由

　　　地震防災の学習は以下の内容を基本とする。

* ハザードの理解（なぜ地震が発生するのか）
* 地震への備え（ハードとソフト）
* 地震発生時の対応（直後の身を守る方法から避難、救出・救助、支援、避難所生活など）

地震発生後、しばらくの間、自宅を離れて避難所で生活することもある。食糧・水などの必需品が不足する中での不便な生活も考えられる。非常持ち出し袋に何を入れていくかをグループで考えさせ、その結果を家族と話合わせて、実際に準備させることは、災害時の避難生活で役立つ。

**３　評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への関心・意欲・態度 | 集団の一員としての思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての知識・理解 |
| 評価規準 | 自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。 | 小学校での生活を楽しくするために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 小学校での生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。 |

**４　事前の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
|  |  |  |

**５　本時のねらい**

　　地震による死者の多くが倒壊した建物や転倒した家具の下敷きによる圧死であることを理解させる。

　圧死を避ける方法として建物の耐震化と家具の固定が大切であることを理解させる。

　家具の固定の方法を理解させる。

**６　本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指すこどもの姿と評価方法 |
| 導入 | 　非常持ち出し袋に入れるものと量を考え、発表する。 | 過去の学習の定着を図るために、一般的に非常持ち出し袋には何をどれくらい入れるかを問う。 | 　これまでに学んだ非常持ち出し袋についての知識をしっかりと理解しているか。　積極的に発表しているか。 |
| これから行う「非常持ち出し袋ゲーム」の方法を聞き、理解する。 | これから行う「非常持ち出し袋」の方法を説明する。 | 　説明を聞き、理解できているか。 |
| 展開 | 　グループに分かれて非常持ち出し袋に入れる物品を検討する。　与えられた金額で、何を何個買うかを相談する。 | （ルール）・非常持ち出し袋に入れる物品と値段の書いたカード（水、缶詰、医薬品、懐中電灯、タオル…など30品目程度）を準備する。・定額（例えば1万円）で何をいくつかうかを相談させる。・割引券を与える。足し算、引き算、掛け算、割り算の練習にもなる。 | 　話し合いに積極的にとりくんでいるか。　自分の意見を適切に主張し、他者の意見に耳を傾けているか。　物品を買う理由は理にかなっているか。 |
| グループで購入することに決めた物品と数量、その理由を発表する。 | グループで購入することに決めた物品と数量、その理由を発表させ、適切にコメントする。 | 　自分たちの考えを的確に発表で来ているか。　他者の意見をしっかりと聞けているか。 |
| まとめ | 　説明を聞いて理解する。 | 非常持ち出し袋に入れる物品は人それぞれ違うことを理解させる。その背景には個人や家族の状況があることも理解させる。 | 　個人、家族の背景によって非常持ち出し袋に入れる物品が異なることを理解しているか。 |
| 　プリントを持ち帰って家族と何を話し合うかを考える。 | プリントを家庭に持ち帰らせ、家族と家具の固定について話し合わせる。次の授業で話し合った内容をチェックする。 | 　 |

**７　事後の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
| 家族と非常持ち出し袋に入れる物品を考える。 | 家族での話し合いがスムーズにいくようにプリントを準備する。必ず入れたいものと家族の事情で入れたいものがあっていいことを説明しておく。 | 非常持ち出し袋の準備について家族と積極的に話し合っているか。 |

以上